

「栄養から眺める感染症 ：現代病としてのマラリア」

東京慈恵会医科大学 医学部医学科 教授
東京慈恵会医科大学衛生動物学研究センター長
博士（医学） 嘉糠 洋陸 先生

寄生虫（parasite）は、“para（傍らで）”と“site（食べる）”というラテン語の語源が示す通り、生育に必要な栄養素を感染した宿主に依存する生物です。マラリアは *Plasmodium* 属の原虫によって引き起こされる疾患で、世界で年間40万人が死亡しています。

本講座では、寄生虫であるマラリア原虫と、その宿主の人間との間に存在する、栄養素を巡る共進化の可能性について、先生の最新の知見を踏まえてご紹介いただきます。

日時：11月28日（月）18:30～20:00

Zoomによるオンライン開催

聴講希望の方は下記メールアドレスへご連絡ください。後日、パスコード等をお送りします。

eiyoukenkyu@sagami-wu.ac.jp

（タイトルに「栄養から眺める感染症：現代病としてのマラリア」と記載してください）

※本学大学院栄養科学研究科の大学院生を対象とした講義ですが、学部学生・短期大学生、教職員、一般の方もご聴講いただけます。ふるってご参加下さい。参加無料